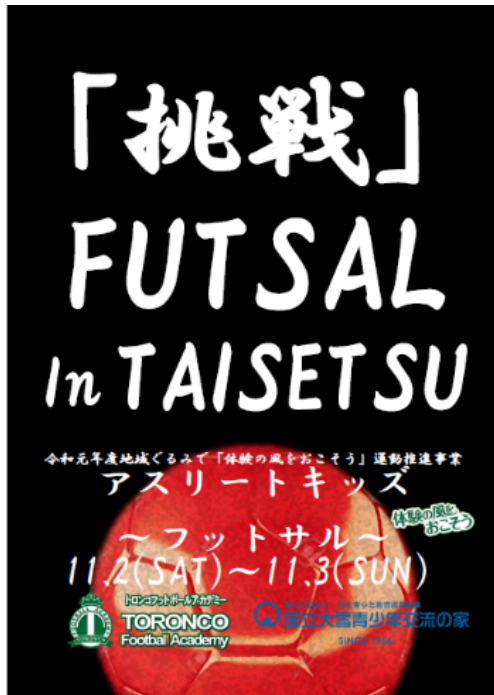


○令和元年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

「アスリートキッズ（フットサル）」(R1.11.02 (土) ~03 (日))



◆目的

試合を通し、選手同士の交流を図るとともに、夜には選手間のコミュニケーショントレーニング、保護者には家庭でできるアスリートの育て方の講義を行う。

◆参加実績（募集6チーム）

参加6チーム 92名宿泊 日帰り248名

【内訳①】

- ・旭川市 4チーム
- ・富良野市 2チーム

◆プログラム

1日目

①予選リーグ

- ・3チームずつ、AブロックBブロックに分かれ、総当たりのリーグ戦を行った。

②コミュニケーショントレーニング（子供対象）

- ・全6チームの選手全員でコミュニケーショントレーニングを行った。
- ・コミュニケーションの大切さ、仲間との協力の大切さを学んだ。

③グループワーク「ゴールパフォーマンスを考えよう！」（子供対象）

- ・チームをバラバラにし、6~7人のグループメンバーでゴールパフォーマンスを考え、グループごとに発表した。

④「家庭でできるアスリートの育て方」（保護者対象）

- ・柔道整復師の近藤氏を講師に、食事の内容、摂取の方法、生活習慣に関する講義を行った。

2日目

①決勝トーナメント

- ・1日目のリーグ戦の順位をもとに、トーナメントを行い、順位を決定した。



◆成果

- ①試合の反省を生かし、次の試合では改善しようとする様子が見られ、技術の向上が見られたと同時に、チームでの宿泊体験を通し、他チームとの交流も深めることができた。
- ②保護者は、講義を聞き、「すぐ家で実践しよう」などの声が聞かれ、子供への関わり方や、身体作りについて理解を深める機会となった。



◆各チームの指導者の声

- ・フットサルシーズンの開幕前のため非常に良い
- ・宿泊型となると日常生活のトレーニングになる
- ・選手自身に考えさせ、サッカー以外の面も鍛えられる

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・試合機会の少ない小学校3年生以下を対象にし、試合機会の確保を目的とした。
- ・2日間の大会の中で、試合をするだけでなく、他チームとの交流や、チームで課題を解決するプログラムを展開することにより、自然とコミュニケーションが生まれる雰囲気づくりを行い。フットサルの技術ではなく、選手の自主性、自立性を図った。
- ・試合の運営や審判、カメラマンを、連携先であるトロントフットボールクラブの上級生が担当し、子供達だけで事業を運営した。

◆事業運営予算

運営請負 200,000円

